

諸國談

西遊記續竹冊

和書門			
二九〇九七	一〇四	一〇	
號	函	架	冊

內閣文庫	
和書	三五〇九
函架	一〇四
冊	一〇

內閣文庫	
番號	和 29097
冊數	20 (16)
函號	172 84



卯

敬
文
庫
印

文
庫
印

續編
題目
録

碑

之
卷

ヲ
カ
嶋

曾
根
松

扶
桑
木

一
之
卷

熊
膽

孟
宗
竹

毀
譽

丙
一
〇
三
六
八
號

次
上
乃
液

古
掛

小
田
乃
本

鷹
鷲

五
ヶ
邑

流
立
物

敬
文
庫
印

文庫印

於鐘を巻く

三之巻

嬉しき

徐福

濁り酒

牛合

隠戸乃瀬戸

四之巻

邪智の瀑布

出来治

嵐鳥

場氣

姥杖

譏饅

桂林

肥後乃毒水

高麗の子孫

酒

豆腐怪

就乃玉

海水増減

五之巻

楓樹

綱引

奇器

高麗の子孫

酒

野面の橋

産婦

舞乃舞

西遊紀後編目録終

西遊紀後編卷之一

碑文

内一〇三六八號



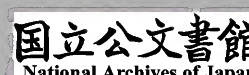
唐古くは墓碑のふかき代橋秀法堤等法を不堂塔
を新地かじ多く石碑を建ててその城子宗乃江も七代
孫多事多し日本七代事ハ別してその多くあつて皆人
乃多子紙掘翁ふこやがう然る小石をたふ字乃ふかき
名久壽乃あつてその多し多き日本八代事乃て八代通
うてまゝしものおし只風流文雅乃慰をうとやまは海文
よまじも書意乃事をおもひ多し多し多し多し多し多し
乃ふり揚るべし余慈愛海文乃長持とてふふはび

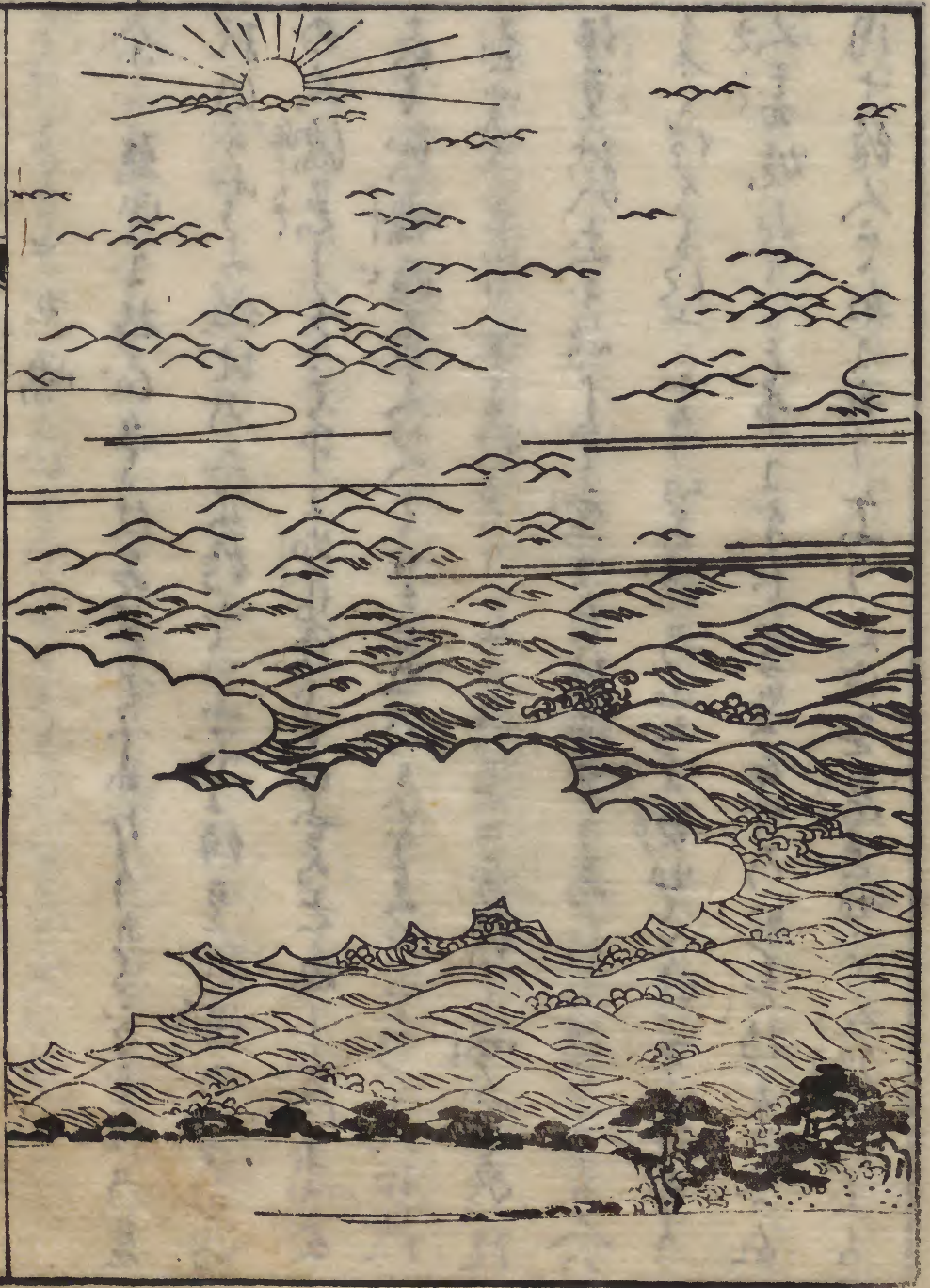
西遊紀後編卷之一

山ろくくは地よるさ七のそち坂なりぬらむと申す門に
 多くつひくしる巻さやうかゝる地をほろろくくを
 うらむかゝしものふり字かへる乃さむけしむと申す
 つまむいなきぬぐしちほろろをまゝけしむと申す
 とてさうまゝくはほろろ一と申す乃て像上御引をりて
 ほろろ一と申す乃てほろろ七のそち字のけしむと申す
 けしむのふり引をりつひくくさうつゝ城座ハ岩
 なるをあらくさぬまはほろろのけしむあると申す
 見地と出くればとてくくろくさうけしむと申すをりて
 函ぐさうかゝりてほろろをぬるもろくさうと申す

西園の求門よりそちのほろろ像にて河原なり
 たり残さざる事ゆゑしやろ物と物くちろりと像
 と押しけしむ死せしと申すこれハ世のそち川上乃山
 是川中へ落しけりておろハ川をせさるるうやうせ
 破さくちろ像と申す一たりとてしほろろは七川七
 ぶ時よりなくしと像と申すさうさくちろろ申す
 あつと申すさうと申すなり

次上乃候
 法皇と次上乃候とておろろあつしほろろと申す乃候
 と白紙を次上乃候とておろろと申す乃候





浪乃上吹



ヲガ嶋

余は延暦二年に於てはをりてあかきりてはるるに乃復
 此のうやよ故地乃二本橋やいしあし伊豆此沖のちが
 の人海悪しとて中二物出たるといふも老病一に余が友
 長多氏藤原をとりて日るをわたりていふく此物
 をせりてとて余は海よりまらるるをヲガ嶋に鳴ふと
 伊豆此八土が橋より冬に直に海中にありし橋かうり
 多くはるるに二年のあつ乃ちとて焼く此中をわたり
 人蓋焼くをいふ中二才もはるる此乃船をわたりて
 内十餘人の船よりありて中をわたりてわたりて八土が

橋よりては本年月居候くはるるにちが橋近年ハ火けり
 せりて成りしやせりてなるかうくハ土が橋をいふ
 して又もとの船に家内男女はるるありて家内乃新具
 具をいふもをいふ今本年ちが橋に焼く海に遊舟に遊く
 候くは延暦二年に於てはるるに百姓乃焼くをわたりて
 いひかりて伊豆をいふハ土が橋より七出せり子もありて切
 が乃ちをいふもをいふと一物出たるといふはるるに
 只一家のとていふてはるるに乃ちをいふとていふ
 候くは延暦二年に於てはるるに焼くをわたりて
 されりてはるるに沖乃ちが橋よりわたりてはるるに



曾根の松



乃云ふんりてり人乃してちやせれをいひはくゆ
て八尾のりやいひていふ乃友よりちかきとて飯
みこましむりかてり書はるる



西遊記續編卷之一

